

咲き誇れ秋田

日銀秋田支店長の目

「雨は夜更け過ぎに雪へと変わるだろう」

全国各地でクリスマスツリーの点灯式が開催されたとのニュースが流れる時期になった。今年こそは街中に人があふれ、にぎやかで楽しいクリスマスになればと願うばかりであるが、私と同世代の皆さんにとって、クリスマスは定番曲と言えは山下達郎さんの「クリスマス・イブ」ではなからうか。

先日、あきた芸術劇場ミルハス（秋田市）の大ホールで山下さんのコンサートを見てきた。ミルハスで音楽を聴くのは初めてだったが、施設の素晴らしさはもちろんのこと、音響がどのくらいすごいのか、わくわくしながら開演を待った。コンサートの楽しい時間はあっという間に過ぎた。山下さんはミルハスについて「オープン

山下達郎さんと現店舗

して数カ月なのに、あまり音が暴れない」「皆さんの拍手が降ってくる」と、ミュージシャンらしい言い回しで称賛していた。最後には「演奏者の声をもっと吸収することで、数年後には素晴らしい施設になりますよ」とべた褒めだった。私も、素人ではあるがこれまで体験したことのない音響の良さに驚いたところである。

そんな「パワフルな69歳が、私の身近なところにもいる。毎日お世話になっている、日本銀行秋田支店の建物である。人に例えれば、山下さんより一足早く今年、70歳の古希を迎える。同支店は今から105年前、同じ敷地内に初代の店舗が開設された後、30年ほどで建て替え

となった。1952年11月24日、め、「東北一を誇る日銀支店」と絶賛されたという。築70年ともなると、さまざまな変遷をたどって面白いことも起きる。その一つが「なぜ建物の正面が、竿燈まつり会場として知られる山王大通りを向いていないか」である。私は当店に

着任した当初、あまり目立ち過ぎないよう、奥ゆかしく横を向いているのだと真剣に思っていた。古希を迎える人間と同様、建物もいろいろなところにガタが来るはずであるが、今のところ元気いっぱいである。過去には日本海中部地震や東

パワフルに古希迎える

ただ、私がおもった驚いたことがある。それは3時間近く、時にはマイクなしで2階席まで届く美声を披露しながら演奏した山下さんの年齢である。現在69歳。来年2月には古希を迎える

現店舗が2代目の建物として営業を開始した。店舗は正面からみると、それは大いなる勘違いだと分かった。

実はかつて、当地のメイン通りは山王大通りでなく、日銀秋田支店の正面が接している通りであった。支店の並びには老舗呉服店の「辻兵」があり（後に

スーパのダイエー秋田店となつた）、向かいには本金デパートとアーケード街「秋田名店街」が、少し先には秋田魁新報社本



70年前の当時はアメリカで流行した最先端の建築スタイルだったようだ。完成時には県内最大の近代建築として注目を集

社もあった。

さらに、山王大通りを越えた川反エリアには秋田銀行や、北都銀行前身の羽後銀行、秋田信用金庫のほか証券会社も軒を連ねていた。日本銀行秋田支店は、その真ん中の一番目立つところで、メインの通りに正面を向いて鎮座していたのである。現店舗も、勘違いして申し訳ない、と今は思っている。

（真鍋隆・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉